琉球大学学術リポジトリ

ホルモン感受性前立腺癌における、ホルモン治療開始3か月後のPSA値は全生存期間の予測マーカーである

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): mHSPC, Time to CRPC, Prostate cancer, 3-Month %PSA 作成者: 仲西, 昌太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002018027

（別紙様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

Three-month early change in prostate-specific antigen levels as a predictive marker for overall survival during hormonal therapy for metastatic hormone-sensitive prostate cancer

（ホルモン感受性前立腺癌における、ホルモン治療開始３か月後のPSA値は全生存期間の予測マーカーである）

氏　名　　仲西　昌太郎

論　文　要　旨

緒言：アンドロゲン除去療法（以下ADT）は転移のあるホルモン感受性前立腺癌（以下mHSPC）に対する標準的な治療である。しかし、mHSPCに対するADTの効果は、早期に治療抵抗性を示すものから長期効果を示すものまでさまざまであり、現時点では、予後を予測する確立したマーカーは存在しない。そのような背景の中、前立腺特異抗原（以下PSA）に注目した報告がいくつかある。PSA値が半分になるまでの時間や倍加時間は、治療前の因子よりも予後と相関したといった報告や、PSA値の一月あたりの低下速度が予後と相関した、といったものである。しかし、ADT開始後早期のPSA値変化に注目した報告は少ない。PSA値は実臨床で使用されており、測定における手間と時間がかからず、かつ早期変化で判断可能であれば臨床上非常に有益である。そこで我々は、mHSPC患者において、ADT開始3か月後のPSA値の変化が予後と相関するか検討した。方法：琉球大

学病院と那覇市立病院で2005年1月から2018年6月までの期間にmHSPC患者に対してADTを施行した71例を検討した。前立腺癌の局所診断は直腸診や経直腸エコー、MRIを使用した。リンパ節転移や遠隔転移の診断はCTやMRI、骨シンチ、FDG-PET/CTを使用した。ADTは、内科的去勢、もしくは外科的去勢、さらにそれらに非ステロイド系アンドロゲン薬の併用（併用した群をCABと略す）で実施した。去勢抵抗性前立腺癌（以下CRPC）の定義は、1）3週間以上空けて測定したPSA値が最低値から25%以上の上昇、かつ絶対値が2ng/ml以上、2）画像評価での増悪、3）主治医の判断（薬剤変更も含む）とした。Time to CRPCの定義は、ADT開始日からCRPC診断日までとした。全生存期間（以下OS）の定義は、ADT開始日から死亡日までとした。Time to CRPCやOSの予測因子として、診断時PSA値、Gleason score、TNM分類、骨転移の広がり（以下EOD)、内臓転移、CAB施行、骨修飾薬（以下BMA）の使用、ADT使用3か月時の%PSAを検討

項目とした。PSAは中央値（261ng/ml）を用いて2群に分けた。また3か月時の%PSAの中央値が1.1%であったため、1%以上（以下%PSA ≧ 1)、未満の2群に分けた。統計解析はJMP version 12を用い、生存時間分析はKaplan-Meier法を用いた。予後予測因子の検討はCoxの比例ハザードモデルを用いた。結果：観察期間の中央値は38か月（5 - 156）で、その間に57人（80%）がCRPCと診断された。Time to CRPC、OSの中央値はそれぞれ15か月、92か月であった。単変量解析では、time to CRPCはEOD ≧ 2と%PSA ≧ 1が有意であり、OSは%PSA ≧ 1が有意であった。多変量解析では、time to CRPCはGleason score ≧ 8、EOD ≧ 2、%PSA ≧ 1が独立した予測因子であり、OSは%PSA ≧ 1のみが有意であった。Time to CRPCの予測因子であった上記3つをすべて満たす群をハイリスクグループと定義し、それ以外のグループと比較すると、p = 0.0171と有意に短く、AUC:0.822であった。結論：Gleason score ≧ 8、EOD ≧ 2、%PSA ≧ 1はtime to

CRPC の独立した予測因子であった。特に、%PSA ≧ 1 は OS の独立した予測因子でもあった。これらの結果から %PSA ≧ 1 は mHSPC の予後予測因子として有用と考えられる。